

## 令和7年度 新発田市・胎内市・聖籠町定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議概要

- 1 日 時：令和8年1月27日（火）午後2時から午後3時15分まで
- 2 会 場：新発田市役所「ヨリネスしばた」5階 会議室 503
- 3 出席者：高澤会長、熊谷副会長、趙委員、飯田委員、水戸部委員

### 【事務局】

新発田市農林水産課：兼田係長

新発田市商工振興課：宮野係長

新発田市みらい創造課：樋口課長、鳥海課長補佐、齋藤係長、樋浦主任

胎内市総合政策課：井上参事、相馬主任

聖籠町総合政策課：高橋主幹、小柳主事

## 4 会議概要 ※次第に沿って進行

### ○開会

※委員変更の連絡（新発田市観光協会の役職交代により、齋藤泰弘委員が就任）、欠席委員の連絡、資料確認

### ○挨拶

#### 【事務局】

本懇談会は、圏域が抱えている人口減少という課題に対して、3市町が連携して、圏域のさらなる発展や住民の生活機能の向上を図るために、行政だけでなく住民や民間の方々も含めてどのように取組を行っていくべきか検討を行うこととしている。

本日の議事は①連携事業の進捗状況、②定住自立圏共生ビジョン別冊の改定、③広域連携農産物等販売促進事業の事例紹介についてである。

### ○議事

#### (1) 連携事業の進捗状況等について

#### 【事務局】

※資料1、2に基づいて説明

## 《公共施設相互利用推進事業について》

#### 【委員】

学校の体育館を利用出来なかった人がコミュニティセンターを借りるケースがあり、コミュニティセンターが借りづらくなっている。公民館の利用という選択肢もあるため、公民館の利用を促進していただきたい。

### 【事務局】

スポーツ施設については、居住地の施設にはない設備を求めて居住地以外の施設を利用するようなケースもあり、相互利用という意味では有効に活用できていると考えるが、住民以外の利用により住民が施設を利用しづらくなるという問題も生じている。スポーツ施設や学校の体育館が利用できなかった時の代替施設として、コミュニティセンターだけでなく公民館の運動スペースも有効に活用してもらえよう、関係課と連携を図りながら周知をしていきたい。

### 【委員】

現在、部活動の地域展開が進められており、中学校の部活動が地域のクラブへ移行していくが、地域のクラブが学校の施設や公共施設を使うことで、施設の一般利用者が利用できなくなるという懸念がある。限られた施設を有効に活用するために、広域連携も視野に入れて部活動の地域展開を進めていく必要があると考えている。

広域連携となれば、各市町内の枠を超えたクラブ単位での活動となるので、強いクラブであれば全中などの上位大会へ出場することも可能となる。これは定住促進にもつながるのではないか。

### 【事務局】

部活動の地域展開について、新潟県の中で新発田市は少し取組が遅れており、準備が整った競技から段階的に移行を進めている状況である。

### 【委員】

部活動の地域展開については今後の課題もあるようなので、行政と連携しながら進めていただきたい。体育館の利用については、大学や短大の体育館も一般利用が可能となっている。利用可能な体育館の掘り起こしを行い、上手に活用してほしい。

## 《圏域就職支援事業について》

### 【委員】

インターンシップについては、企業側と学生の求める業務のミスマッチが生じているため、業務内容を調整してミスマッチを解消することが必要と考える。また、敬和学園大学では令和8年4月から新発田駅前通りにオープンするまちなか拠点において、学生の圏域内定住・就職につながるような取組を実施したいと考えており、取組内容について今後行政へも相談させていただきたい。

### 【事務局】

移住・定住に関連した取組としては、移住者による交流会や情報発信が行われているが、移住者と大学生が交流することで、県外から見た圏域内の魅力が伝わり、移住・定住につながる可能性がある。また、これまで県単位で実施してきた首都圏での移住セミナー出展に加

え、令和8年度は定住自立圏の3市町で自主的に移住相談会の実施を検討しており、そうした取組においても敬和学園大学の学生との交流できる可能性があるため、まちなか拠点の取組も含めて、相談させてもらえればと思う。

**【委員】**

まちなか拠点のプログラムとして、「外国人向けの日本語」なども検討している。圏域内のニーズとマッチングできればと思っている。

**【委員】**

敬和学園大学には留学生もいて、日本語が上手な方が多い。大学院進学や起業を目指す方も多い。企業と、企業が受け入れている技能実習生や留学生をマッチングさせるための支援プログラムなどを大学で考えると、敬和学園大学の留学生の採用にもつながるのではないかなと思う。

《子育て応援カード事業について》

**【委員】**

子育て応援カードの利用者実績について、高校生の申請が少なかったことによる目標未達と事務局から説明があった。高校生は育ち盛りで食費もかさむことから、買い物時の割引は、親御さんにとって非常に助かる制度である。高校生世帯へもう少し効果的に周知すれば、申請が多くなったと思うので、今後は周知を強化した方が良い。

**【事務局】**

高校生世帯への周知強化について担当課に伝え、3市町で連携して周知強化に努めていく。

**【委員】**

高校生世帯への周知については、高校の入学説明会で、制度の説明やパンフレット配布などを行うことで利用が増えるのではないかなと思う。利用者増加の余地は残されていると思うので、周知の強化をお願いしたい。

《広域連携農産物等販売促進事業》

**【委員】**

アルビレックス新潟のホーム戦でブース出展を行っているとのことだが、アルビレックス新潟がJ2に降格したことによる来場者数の減を見込んで、令和8年度の目標値を低く設定しているのか。また、降格により来場者数が減るのであれば、サッカーだけでなく野球やバスケットボールなど、他のスポーツイベント等でのブース出展により減った分を挽回できると考えるが、他のスポーツイベントへ出展する考えはあるか。

### 【事務局】

目標値については令和 4 年の共生ビジョン策定時に設定した数値であり、変更していない。共生ビジョン策定時は、各市町が開催するイベントに相互出展する形式で事業を実施しており、各市町の来場者数の合算値を目標値として設定した。事業の実施方法についてはコロナ禍を経て見直しを図り、アルビレックス新潟ホーム戦での 3 市町のブース出展という現在の形式に至っている。実施方法の見直しにより来場者数は大幅に増加している。

他のスポーツイベントへの出展については、3 市町でより効果的に PR できる方法について調整していきたい。

### 【委員】

アルビレックス新潟ホーム戦については、野球の試合が同日開催される日にブース出展をしたり、ブースを大きくすることで、より多くの方に PR できる可能性がある。また、スポーツカルチャーツーリズムの面からは、県外の学生の合宿や各種大会が圏域内で行われる際に圏域内の農産物等を PR するという方法も考えられる。PR の仕方で来場者数を増やすことができる事業だと思うので、効果的に PR できる方法について検討してほしい。

## 《新潟職業能力開発短期大学校を中心とした産・学・官の連携強化について》

### 【委員】

この事業は新潟職業能力開発短期大学校を中心として実施されているようだが、敬和学園大学から見ても魅力的な事業内容であると感じる。敬和学園大学と連携して事業を実施することは可能か。

### 【委員】

新潟職業能力開発短期大学校は厚労省所管であることから、商工会議所が産業教育振興協議会を立ち上げ、新発田市と連携のもと各種支援を行ってきた経緯がある。新潟職業能力開発短期大学校の運営部会委員として、次回の部会で意見を伝えさせていただく。

## (2) 共生ビジョン別冊の改定について

### 【事務局】

※資料 3 に基づいて説明

※質疑なし

## (3) 連携事業の事例紹介について

### 【事務局】

※資料 4 に基づいて説明

**【委員】**

海外輸出については、関税の影響も考慮しながら対象国について検討してほしい。

**【委員】**

農産物等の販売イベントについて、KPI の指標を来場者数としているが、販売数や売上額につながっているという感触はあるか。

**【事務局】**

旬の農産物や圏域内の特産品を販売し、全体としてほぼ完売という状況であった。

**【委員】**

ブースを出展する場所はイベント主催者側からの指定なのか。

**【事務局】**

基本的には指定だが、3 市町連携で出展する際は人通りが多い場所の提供をお願いしている。

**(4) その他**

《定住自立圏事業の目標値設定について》

**【委員】**

目標値設定について、関係課等の負担にならないよう、極端に上げすぎず現実に即した数値にしたほうがよいと考える。

**【事務局】**

御意見を今後の事業に生かしていく。

《定住自立圏の「定住」の概念について》

**【委員】**

定住自立圏の「定住」は、定着して住むという意味の「定住」なのか、関係人口等を含めた柔軟な意味の「定住」なのか、確認したい。

**【事務局】**

第一義的には定着して住む「定住」であると捉えている。平成の大合併と呼ばれる市町村合併後も全国的に人口減少が続いており、自治体単独での自立が困難な状況で出てきたのが「定住自立圏構想」である。圏域内市町村が連携・協力して生活機能を確保することで、圏域全体の活性化を図るとというのが定住自立圏構想の根本的な部分である。しかしながら、結びつきやネットワークの強化という枠組で地域内外の交流促進を目的とした事業を展開していることも踏まえ、定住自立圏の取組には交流人口、関係人口という視点も非常に重要と考えている。

○閉会

【事務局】

委員の皆様から貴重な御意見をいただき、御礼を申し上げます。委員の皆様からいただいた御意見は、次年度以降の取組の参考とさせていただきたい。

委員の皆様は今年の3月をもって任期満了となる。あと2ヶ月を残すところではあるが、これまで当事業に御協力をいただいたことに感謝を申し上げます。

○事務連絡

【事務局】

今回の懇談会の内容について御意見や御質問があれば、新発田市みらい創造課へ御連絡いただきたい。また、次期委員については各分野を代表する方々へ委嘱の依頼をさせていただくので、依頼があった際は、御協力をお願いしたい。

○懇談会終了